

## ■ 作品について

伝 ペーター・ベルンハルト・ヴィルヘルム・ハイネ [attributed to Peter Bernhard Wilhelm HEINE、1827–1885]

## 《ペルリ提督横浜上陸の図》

1854 年以降（嘉永 7 年/安政元年以降） 油彩、カンヴァス 53.3×80.5cm 横浜美術館蔵 原範行氏・原會津子氏寄贈

**描かれたその日その時-----**

東インド艦隊を率いて日本に開国の交渉にきたペリー提督一行が、横浜に上陸し応接所に向かう場面です。1854 年 3 月 8 日（嘉永 7 年 2 月 10 日）、12 時頃のことです。

湾の沖合に横一列に並ぶのはアメリカの 8 艘の黒船です。一行はすでに短艇（カッター）を降り、ペリーを先頭に整列して歩みを進めています。アメリカの楽隊によって「ヘイルコロンビア」という行進曲が演奏されたそうです。

一方の日本人の人々はどんな様子でしょうか。その時の日本は江戸時代、鎖国をしていました。着物姿で警固する藩の旗や纏（まとい）が立っています。沖合に見える 1 艘の船はペリーと交渉する役目の日本人を運んできた江戸幕府の木造船。画面左の応接所は急ぎ移築されたものです。画面右に大きなたまぐす（玉楠）の木、その木の下には鳥居と水神社があります。警固する日本人を中心に描かれていますが、この歴史的場面を見物にきているのか、背後には大勢の日本人の人々が描かれています。

**画家と絵について-----**

細部まで綿密に描かれたこの油彩画の作者は、ペリー艦隊に随行して来日したペーター・B.W.ハイネという画家かもしれないとされています。ハイネは実際にみた日本の風景や人々を描き、後にまとめられた『ペリー艦隊日本遠征記』という本の挿絵に多数用いられています。

- ①～⑧ 東インド艦隊の船 左からサラトガ号、サザンプトン号、ヴァンダリア号、ミシシッピ号、マセドニアン号、ポーハタン号、サスケハナ号、レキシントン号。ペリーがこの時乗っていたのは青い旗のついたポーハタン号です。
- ⑨⑩ 短艇 隊員を乗せ行き来する小船。カッターやバツテラとも呼ばれます。
- ⑪ マシュー・ペリー 東インド艦隊を率いて鎖国をしていた日本へ来航、開国を要求し、交渉しました。
- ⑫ アメリカの海軍旗
- ⑬ アメリカの国旗
- ⑭ 犬 尾が短くされているので、艦隊とともに来た犬という説があります。
- ⑮ 幕府の船 「天神丸」。当時の日本にはアメリカのような軍艦はありませんでした。
- ⑯ 応接所 浦賀から急ぎ運んで移築した応接所。ここで交渉がおこなわれました。
- ⑰ 三つの笠の家紋 浦賀奉行の印です。
- ⑱ 旗 白地に赤く染め抜かれた三階菱の家紋は警固にあっていた小笠原藩を示します。
- ⑲ 水神社 横浜市中区羽衣町の巖島神社に移転し現存しています。
- ⑳ たまくすの木 大火での焼失などを経て移植され、現在の横浜開港資料館の中庭にあります。



⑳

